

報告第3号

野田市下水道事業経営戦略の事業評価について

1 環境保全

(1) 未普及地区の解消

令和12年度までに普及率89.0%（※）を目標に、投資効果等を見極めながら市街化区域に重点を置いて、汚水施設の整備を進めていきます。

（※）普及率の89.0%は、下水道全体計画区域の計画人口を基にしたものであり、行政区内人口を基にすると77.4%になります。

（単位：％）

項目	R2 (実績値)	R3 (実績値)	R4 (実績値)	R5 (実績値)	R12 (目標値)
普及率	80.8 (69.3)	81.9 (70.5)	82.9 (71.3)	84.1 (72.3)	89.0 (77.4)

※普及率の上段の数値は下水道全体計画区域の計画人口を基にしたものであり、下段（ ）内の数値は行政区内人口を基にしたものになります。

評価：令和5年度も新規の汚水施設の面整備を実施し、令和12年度の目標値に向けて概ね順調に普及率が向上しました。

2 安全・安心

(1) 浸水に対する備え

主に雨水幹線（南部1号幹線、阿部沼幹線）や雨水調整池（阿部沼調整池）等の整備を進めていき、浸水常襲箇所の解消に努めます。

（単位：％）

項目	R2 (実績値)	R3 (実績値)	R4 (実績値)	R5 (実績値)	R12 (目標値)
進捗率	6.3	9.3	10.0	13.2	38.7

評価：雨水調整池のうち阿部沼第3号調整池は令和5年5月に整備が完了したが、宝珠花排水区については、令和6年度より大規模雨水処理施設整備事業として個別補助採択となったことから、安定的な資金確保が可能となり、現在、整備を行っている阿部沼第1号並びに第2号調整池についても順調に進捗している。今後も令和12年度の目標達成に向け、鋭意整備を推進していくことが必要である。

(2) 地震に対する備え

下水道総合地震対策計画に基づき、管路の耐震化工事やマンホールの浮上対策工事、ポンプ施設の無停電化及び耐震化工事を進めていきます。

(単位：%)

項目	R2 (実績値)	R3 (実績値)	R4 (実績値)	R5 (実績値)	R12 (目標値)
進捗率	13.4	13.4	25.2	33.0	100

評価：令和5年度の地震対策事業は、管路施設（マンホール）の耐震詳細設計や川間南汚水中継ポンプ場の耐震診断を実施した。令和6年度以降は、診断に基づきマンホール浮上対策や、ポンプ場の耐震化工事に着手し、来る大規模地震災害に備える必要があることから、令和12年度の目標達成に向けて、重点的な対策工事の推進が必要である。

(3) 施設の老朽化・不明水対策

下水道ストックマネジメント計画（長寿命化計画）に基づき、管路施設やポンプ施設の改築更新を進めていき、施設管理の適正化を目指します。また、不明水対策においては下水道ストックマネジメント計画（長寿命化計画）と連携して対応します。

実施年度	主な取組内容
R2	管路調査業務 平井汚水中継ポンプ場電気設備改築工事（R3 完成） マンホールポンプ更新工事
R3	管路調査業務 ポンプ場施設ストックマネジメント修繕・改築計画策定業務 マンホールポンプ更新工事
R4	管路調査業務 平井汚水中継ポンプ場機械設備改築詳細設計業務 川間南汚水中継ポンプ場電気設備改築工事 マンホールポンプ更新工事
R5	下水道ストックマネジメント計画（第2期）策定業務 管路施設修繕改築計画策定業務 マンホールポンプ更新工事

評価：施設の老朽化・不明水対策は、下水道ストックマネジメント計画（第2期）を策定し、岩名地区管路の修繕改築計画を策定し、その計画に基づき令和6年度に詳細設計を行い、その後に同地区管路の更生工事等を行う予定です。現在は、調査段階であることから不明水に対する実質的な改善はありませんが、今後対策工事による効果が少しずつ現れ、徐々に不明水の解消につながっていくことが予想されます。

3 安定

(1) 経営の安定化

経営の安定化を図るため下水道普及率を令和 12 年度までに 89.0% (※) を目標とした汚水施設の整備を行いながら、戸別訪問による接続促進や融資あっせん及び利子補給制度により水洗化率の向上に努め、下水道使用料の収益を高めていきます。

(※) 普及率の 89.0%は、下水道全体計画区域の計画人口を基にしたものであり、行政区内人口を基にすると 77.4%になります。

(単位：%)

項目	R2 (実績値)	R3 (実績値)	R4 (実績値)	R5 (実績値)	R12 (目標値)
普及率	80.8 (69.3)	81.9 (70.5)	82.9 (71.3)	84.1 (72.3)	89.0 (77.4)

※普及率の上段の数值は下水道全体計画区域の計画人口を基にしたものであり、下段

() 内の数值は行政区内人口を基にしたものになります。

評価：令和 5 年度も新規の汚水施設の面整備を実施し、令和 12 年度の目標値に向けて概ね順調に普及率が向上しました。

(単位：%)

項目	R2 (実績値)	R3 (実績値)	R4 (実績値)	R5 (実績値)	R12 (目標値)
水洗化率	93.2	93.2	93.5	93.9	現状以上 (93.7)

評価：水洗化率（＝水洗化人口／処理区域内人口）ですが、水洗化率は処理区域内人口に対する水洗化人口の割合を示したものです。令和 5 年度は下水道管渠等を整備することにより処理区域内人口が年度末までにかけて増となりましたが、新規整備による処理区域内人口の増よりも、既に整備された区域に対して新規接続される水洗化人口の増の方が多くなったことから、水洗化率が向上しました。